

出品者の一言

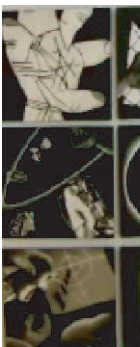
われわれは、
として、自由な
日々活動して
の精神の独立
混乱の中で
個人々の現実
現在、直面す
本の論理の重
する状態、そ
常を拘束して
状況の枷が写
深いほど、われ
よりダイナミック
ないだろう。
われわれは
創造する者と
と形式を領有し
抗しつつ、人間
の共存により社
ものをこそ超え
たな地平を拓

会期内企画

◆創作研究会
「フクシマ
6/12(水)13:30
美術館エタジ
＜バスター＞

も自然も人も死の灰となり街一帯が消えてし
た。爆心地から遠く離れた地域までが被
爆地となり被爆者は戦後もながく苦しみなが
ら生き後々まで辛い後遺症を持って生きてい
ると言うことを。

「不安」 F50
一瞬にして街が、人々が消えてしまった、この現実、今も形は違え昨年震災後の福島原発事故により被災地区、近隣町々は自然も住民も家畜も犬も猫も 地域全体が生きながら「消えてしまった。人々は住み馴染んだ家々から去ることを余儀なくされたままである。いつ我が家に戻れるかさえ判らない不安な生活の中で 尚国は原発用稼働へと動いている。日本は原子エネルギーによって二度被爆したと言っても過言ではない。勿論原子力発電は原子力の有効利用であり原子爆弾ではない。だが今私達は 原子力(原子エネルギー)について過去チェルノブイリが又福島がそうであった様に何かの事故があった場合には放射能汚染(放射能物質により環境食物 人体が汚染される事で問題は放射能物質が生体に入ったままで対外に排出されにくく物質によっては増大すること)にさらされるという事をもう一度強く考えるべきであり、日本は67年前に原子爆弾による被爆と言つ惨い代償の上で終戦に至った国であることも忘れてはならない。日本人として一人一人に今どう主張する事が大切か求められている。



enfant terrible

以上でも以下でもない。絵を描くことはこの地上にまたひとつゴミを増やすことに等しいのかもしれない。しかしこのナンセンスはなんと人間的で哀しくそして輝かしいことではないだろうか。いまはある者に求められるテーマは原発、震災であろうが私はこの迷路の中で右に左に迷いながらも自分の課題を捜し追い続ける。

手が箒 宮崎 優

自分の気に入ったあだし目が描ければそれを顔にして、顔ばかりか描いていた。

しかし、顔だけではなと、思うこともしばしばだった。

顔をのせる土台のようなものが欲しかった。土台は身体のことになるが、ただの身体では気がすまなかった。

そんなことはかり描いたり考えたりしているとそのうち気鬱になりうんざりしてくる。

そういう時ちよつと傾向のちがった絵を描こうと、仮面をかぶせ魔除け・悪魔払いの絵にした。それゆえ手先は、箒になっている。



「土蜘蛛」 P40



透明な稲

鎮魂の飛翔

延々と続く何も無くなった海岸と田んぼに畑、入江という入江。全てを飲み込んだ津波。全てを立ち入り禁止にした原発。そこにいたはずの人がいなくなり、そこに実るはずの稲が透明になってしまった日。天災の恐怖と人災の犯罪とが人類そのものの存在を問いかけた。

しかし、そこに生きるものたちは土深く生命を宿らせ、芽をふき、透明な細胞に己の色を甦らせるだろう。

飛翔して見た大地は、鎮魂の雲の間から、今また延々と続く海岸と田んぼに畑、入江という入江に、雲の涙と歴史の分水嶺から流れ出た新たな泉の恵みを受けて、静かな自然の営みを始める。

百瀬 邦孝



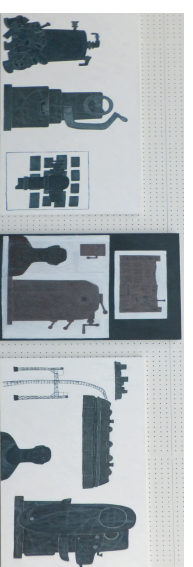
菱 千代子



井田 秋雄



沖田 香津美



森田 隆一



梅村 哲生



小川 喜好

希望を

渡辺 杠子

異常気象をはじめ最近起る異常な事件事故、政治、東京電力も異常です。この様な時世を生きている者として、どうしても現実的な絵を描いて、まします。今回は猫を擬人化し、異宮サイト

